



## たった一言で

### ある本から

今週は、強い寒波が日本列島を襲い、柳津町にも大雪を降らせました。しかし、おかげさまで通常通りの授業ができましたこと、うれしく思います。送迎などご協力いただきまして本当にありがとうございました。

さて今回は、日本全国の小学校へグローブを送ったあの大谷翔平選手が、メジャーリーグ 1 年目に唯一持参した本の中から一部を紹介します。

#### KKコンビを破った名監督の一言

～折れかかった心も、言葉だけで元気にすることができる～

桑田真澄と清原和博のいわゆる「KKコンビ」がいた時代のPL学園は本当に強かった。2人は1年生からレギュラーでしたが、夏の大会は特に強く、優勝2回、準優勝1回。つまり彼らは夏の甲子園で、たった1回しか負けなかったのです。

「夏のKKコンビ」に黒星をつけた唯一のチームは、名将・木内監督が率いていた当時の取手二高（茨城）。試合は取手が1点リードで迎えた9回裏。PLが起死回生のホームランで同点に追いつきます。延長に入れば、サヨナラ勝ちができる裏の攻撃のほうが有利。優勝目前で追いつかれて気落ちしてベンチに戻る取手の選手たち…。

**問題** 心が折れかかった選手たちを復活させた、監督の言葉は何だったのでしょうか？

**答え** 「よかったなあ、まだ甲子園で野球ができるぞ！」

甲子園の決勝戦。ということは、他のすべての球児の「夏」はもう終わっている。この大舞台上、まだ野球を続けられることがどんなに幸せなことか…。

この魔法の一言で、心機一転。プレッシャーを「喜び」に変えることができた選手たちは、10回表の攻撃でなんと4点を奪い、取手二高は茨城県勢で初めての甲子園優勝を果たすことができたのです。

たった一言で、人は蘇ることがあります。贈り方さえ間違わなければ、「言葉」は「人類最高のギフト」です。

ツライと思うことも、見方を変えれば「自分だけしか味わうことができない経験をしている」と考えることができます。そう思えたら、しめたもの。

「壁を越えられないときに教えてくれる一流の人のすごい考え方」（著者 西沢泰生）

## 食育！～全国学校給食週間～

給食センターの皆さんには、いつも栄養のバランスのとれた温かいおいしい給食を提供していただいています。この場を借りて御礼申し上げます。工夫を凝らしたメニューが多く、生徒も教職員もみな給食を楽しみにしています。

さて、1月24日から30日までの1週間は「全国学校給食週間」となっています。ちなみに、この期間の給食は、以下のような特色あるメニュー（主なもの）です。



（↑ 24日（水）の給食）

- 24日（水）：給食記念日献立（ポークカレー、大根サラダ、はちみつゆずゼリー）
- 25日（木）：昔からある給食献立（揚げパン、ほうれんそうのサラダ、マカロニシチュー）
- 26日（金）：福島県の郷土料理（納豆、たくあん、ひじきの煮物、八杯汁）
- 29日（月）：福島県の郷土料理（焼きほっけ、ひきないり、凍み豆腐のみそ汁、みかん）
- 30日（火）：福島県の郷土料理（タンタンめん、まんじゅうの天ぷら、もやしとピーマンのおかかあえ）

福島県では「ふくしまっ子食育指針」において、学校における食育の目標を「食べる力」「感謝の心」「郷土愛」を育む、としています。これらのことは、学校給食だけでなく、家庭での食生活とも大きくかかわっています。機会をとらえて話題にさせていただければと思います。また、保護者の皆さんには、家庭における望ましい生活習慣の確立や食育の推進に努めていただきますようよろしくお願いいたします。

## うれしかったこと

- ① 大雪の日の朝、早く登校した生徒たちが「自分から」外に出てきて、除雪を手伝ってくれました。誰かのために「貢献」する心、とてもうれしかったです。
- ② ①と同じ日の昼休み、1年生男子5人（T君、T君、R君、R君、K君）は玄関前を除雪してくれました。朝に除雪してから昼までにさらに多く積もってしまいましたので、とても助かりました。
- ③ 3年生のMさんに、クラス全員分のマグネットを回収するようお願いしたところ、「自分から」番号順に並べて持ってきてくれました。



一年で、最も寒い時期を迎えているいま、気をつけたいのが感染症です。福島県内は、24日現在、新型コロナとインフルエンザが同時流行していると報道されています。新型コロナの感染者は5週連続の増加、10代以下で約半数。また、インフルエンザの感染者数も微増しています。学校でも基本的な感染対策の徹底を呼びかけております。ご家庭でもよろしくお願いいたします。